

平成 22 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
セレクションコミッティー・強化委員会	<p style="text-align: center;">＜参加大会＞</p> <p>① 第 47 回東日本都道府県対抗大会 ・日程：7月16日～19日 ・会場：岩手県八幡平市上寄木グラウンド、北海道は、開催県、東京都と同様に予選会へは出場せず、本大会へ出場する。 ・宿泊先：岩手県八幡平市安比高原</p>	<p>＜成果＞</p> <p>初代表の選手が活躍した、大会であった。初日は、ブロック分け戦に挑む。昨年の A 決勝で闘った、東京都チームと対戦するも負け、B ブロックへ。 B ブロック決勝では、栃木県チームと対戦。フィーザーからの留学生（白鵬大学）が突破役としてゲインラインをブレイクして来るもののしっかりとディフェンスしていた。アタックも随所にゲインをオーバーし、健闘したものの残念ながら敗れる。 ○1 回戦 7月17日ブロック分戦 V s 東京都 14 - 67 で敗れ B 決勝へ ○B 決勝 7月19日 V s 栃木県 47 - 21 で敗れ 準優勝</p> <p>＜課題＞</p> <p>セットからのオプシオン。 展開のスピードと 接点でのボール争奪戦でのチームとしての経験が不足。 又、7月の北海道選手権後、1週間という厳しいスケジュールのため、大会での怪我の関係や会社への勤務調整など、選手・所属チームの協力が必要である。</p>
	<p>② 第 65 回国民体育大会 東北・北海道ブロック間代表決定戦 ・日程：8月28日～29日 ・会場：秋田県秋田市八橋運動公園</p>	<p>＜成果＞ 運営方式変更から3年目にあたる今年は、東北での開催（秋田県）となる。東北代表は、秋田県を破った岩手県との闘い。 セットプレイでは合宿の成果により十分な闘いをしたものの、チームでのゲーム精度からか、接点でボールの継続ができず、フェーズを重ねるとターンオーバーされるなど、ゲームメイクの差で敗れる。 Vs 東北代表 岩手県 7 - 60</p> <p>＜課題＞ 北海道代表チームとしてのゲーム数少なくゲームマネジメントに差が出る。チームの強み（FW3列の走力、CTBの縦など）を活かすプレイ不足。 東北代表を破り、国体本大会への出場を目標に強化の改善（高校・大学との連携等）と、ゲーム数の増加、その検証が課題。</p>

平成 22 年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
セレクションコミッティー・強化委員会	<p style="text-align: center;">＜セレコン・強化へ向けた事業＞</p> <p>③ 平成 22 年度委員会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：4月24日（土）14：00～ ・ 会場：開発工営社 会議室 ・ アスティー45ビル 13階 ・ 札幌市中央区北4条西5丁目 <p>④ 代表候補セレクションマッチ開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：6月5日（土）15：00～ <li style="padding-left: 20px;">6日（日）11：00～ ・ 会場：札幌市月寒ラグビー場 <p>⑤ 第1回代表強化合宿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：8月21日（土）～ <li style="padding-left: 20px;">22日（日） ・ 会場：江別市 北海道立野幌運動公園ラグビー場 ・ 宿泊：北広島クラッセホテル <p>⑥ 第1回女子7s</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日程：7月10日（土） ・ 会場：札幌市月寒ラグビー場 	<p>＜成果＞高校・大学・社会人のセレクション・強化委員が集まり事業計画等について協議し、特に女子ラグビーについて、話し合いを持てたことが大きな成果であった。</p> <p>＜課題＞年間1回開催のため、高校・大学・社会人・女子などの計画進行状況等の把握ができないことから複数回の開催を検討したい。</p> <p>＜成果＞関東協会セレクターが来札、セレクションポリシーについて、道内のセレクターが集まり、前日にミーティングを実施した。関東協会：荒井委員長、鶴沼委員が参加。社会人に大学生が加わり二つのチームに分けゲームを行った。新人の力を確認できた。</p> <p>＜課題＞トレーニングレベルが低い選手も多く見られた。月寒での開催であったが、モチベーションが低く、代表へチャレンジするというのがあまり見受けられなかった。</p> <p>＜成果＞国体北海道・東北代表決定戦へ向けた直前合宿を行ったことでセットプレイの精度向上が図られ、準備ができた。ゲームでの方針やルール解釈などが図られた。</p> <p>＜課題＞2日間の合宿に全員が参加出来なかった点、2次以降のフェイズの確認にまで時間が作れなかったことから、今後は回数や時間を増やすことや他の情報ツールを使い、時間の効率化を図ることが必要。</p> <p>＜成果＞北海道選手権記念大会として実施。上磯バンビが軸に、北海道バーバリアンズ、大曲 CC、北翔大学から選手が参加。初めてボールに触れた選手もいたが、随所に素晴らしいタックルもあり、多いに盛りがった。</p> <p>＜課題＞大会の継続開催。地域ごとの女子ラグビーの取組（小グループを取りまとめチームの設立）など。</p>

平成 22 年度 各委員会活動報告

委員 会名	事 業 名 及 び 実 施 月 日	成 果 及 び 課 題
レ フ リ ー ソ サ エ テ ィ	1 レフリーソサエティ会議 ① 4月18日(日) ② 7月2日(金) ③ 1月8日(土) 2 レフリー研修会 ① 6月11日～14日 (帯広) 国体予選 (少年) ② 7月2日～4日、11日 (野幌他) 北海道選手権大会 ③ 7月25日～30日 (江別他) 北海道高校 選抜大会 ④ 1月8日～10日(札幌) NTTセミナーセンター 3 C級レフリー認定講習会 各地区毎に実施。 4 ルール伝達講習会 5 各種大会へのレフリー派遣 大会主管理事からの要請に基づ き必要人数を派遣。 6 その他 ・主なレフリーのスケジュール確 認と調整。 ・ゲーム担当後のレフリーミーテ ィングの実施。 ・Uシーバーの補充。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度シーズン終了後に成果や課題等の検証を兼ねた委員会の開催を実施し、反省に基づき第1回の研修を6月の国体予選に位置付けることとした。 ・ 研修会全般としては、概ね所期の目的を達成して終えることが出来た。特に1月には、委員会指名の若手レフリーに対する冬季の研修を実施し、意識向上に資することが出来た。 ・ 北海道選手権の帯同レフリーやレフリー割当、また講師の配置などレフリー研修として考慮が必要である。 ・ 継続したレフリー評価、アセスメントの体制構築が必要となっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道選手権大会、北海道高校選抜大会の監督主将会議の時にルール伝達を行った。 ・ スケジュール調整が難しいため、早期に大会要項の送付も含めて、担当理事からの正式な必要人数等の要請が必要である。 ・ 今年も一部のレフリーに負担加重の状況が見られた。(実働B級レフリーや若手レフリーの絶対数不足、北海道内トップレフリーの高齢化) ※極めて大きな課題である。
年 度 反 省		<ul style="list-style-type: none"> ・ 現役のレフリーも年々高齢化が進んでおり、早期に安定感のある若手レフリーの確保と、B級やC級レフリーの資質向上を図ることが課題である。 また、現役選手が積極的にレフリーを目指さなければ、走力やゲーム感覚等の影響も大きく、将来的に息の長いトップレベルのレフリーを養成することが困難なため、各チームから有望な人員を多く推薦してもらうことが不可欠である。 ・ 一人のレフリーに対する継続した評価をすることが資質向上のため必要であるため、今後その体制を確立していくことが必要となる。

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
競 技 委 員 会	<p>第40回北海道ラグビーフットボール選手権大会</p> <p>平成22年7月2日(金)・7月3日(土)・7月5日(日)・7月11日(日)</p> <p>北海道立野幌総合運動公園ラグビー場二面 千歳青葉公園ラグビー場 苫小牧市緑ヶ丘公園ラグビー場二面 バーバリアンズ定山溪グラウンド二面</p>	<p>今年度は40回の記念大会として記念事業が実施された</p> <p>1. 記念祝賀会 日時 7月2日(金) 18:00 場所 アサヒビール園(白石区南郷通4丁目)</p> <p>2. 記念試合 日時 7月10日(土) 場所 月寒ラグビー場</p> <p>試合種目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生タグラグビー ・女子タグラグビー ・女子セブンズ ・不惑ラグビー ・ミニラグビー ・ジュニアラグビー <p style="text-align: center;">成 果</p> <p>1. 競技面</p> <p>Aブロック決勝は昨年同様の北海道バーバリアンズA対北海道大学の対戦となった。試合結果は北海道大学の厳しいディフェンスに北海道バーバリアンズはゲームを作れず白熱した接戦となり互いに譲らず7対7の両者優勝となった。北海道バーバリアンズは2年連続14回目、北海道大学は平成7年以来15年ぶり2回目の優勝。Bブロックはチーム力充実しているカレッジハウスとAブロックから降格した札幌大学の対戦となり接戦の末札幌大学が優勝し1年にしてAブロック復帰を果たした。CブロックはJR北海道がウォーリアーズ43-0と圧倒し10年連続優勝でBブロック昇格を果たした。来年Bブロックの注目のチームである。</p> <p>大学では北海道大学、道都大学、札幌大学が充実し、教育大学札幌・岩見沢校、釧路公立大学・教育大学釧路校、札幌学院・北翔大の合同チームが健闘し、札幌クラブと学生クラブの合同チーム、KFS・ドーコン・不死鳥のクラブ同士の合同チームと新たな形の合同チームでの大会参加も見られ今後の活動及び組織化と大会参加の新たな方向性が見られる大会となった。</p> <p>帯同レフリー制度については不在チームは昨年の1チームから4チームになった。不足のチームも大学が1チーム、不在チームが大きく減少し合計5チームあったが不在・不足チームのすべてが大学チームであった。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
競技委員会		<p>2. 運営面</p> <p>① グラウンド運営についてはここ数年グラウンドが固定できていることで円滑に進めることができています。札幌・苫小牧担当支部、各委員会の協力も積極的に行なわれた。</p> <p>② ブロック別グラウンド割り付け効果 ブロック内チームが共同で運営管理する意識が根付いてきた。記念事業としてのアフターマッチファンクション実施も行なわれ、ラグビー精神の涵養に繋がる効果が期待できた。</p> <p>③ 安全対策について 一昨年、昨年に引き続き全グラウンドにグラウンドドクターの配置及びドクターバッグの設置を行なった。 監督主将会議において熱中症対策、コンディション対策のセミナーを実施した。</p> <p>④ 芝生グラウンドにおける全試合実施 昨年度に引き続き、野幌グラウンド2面使用、定山溪グラウンド2面使用と今年度もグラウンドを集約化することができた。</p> <p style="text-align: center;">課題と対策</p> <p>① チーム数 昨年の83チームから77チームと6チーム減となった。原因はチーム登録人数の減少に伴い、チームを維持するだけの力が無くなり、合同チームで参加するようになった。結果、競技力は維持できるようになり、優勝チームも出るようになっているが競技人口の増加にはまだ繋がっていない。35歳以上のブロックを作るなど、社会人クラブの複数チームの推奨等を行ない、競技人口の増加を図っていきたい。</p> <p>② 日程 大学、社会人クラブの各大会、合宿の関係上7月第1週土日実施しかスケジュール的に調整がつかない。教員採用試験と重なり、北海道教育大学系の参加については各校の合同チームやOBと現役学生とのコンバインド・チーム結成を推奨し大会参加を促していきたい。</p> <p>③ グラウンド 昨年に続き、野幌グラウンド二面、定山溪グラウン</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
競技委員会		<p>ド二面、千歳青葉公園グラウンド、苫小牧グラウンド二面の計7グラウンドで行った</p> <p>④ 競技時間 決勝戦の競技時間がAブロック40分、Bブロック35分で初めて実施された。東日本、全国大会に出場するチームの為に出来るだけ40分試合が必要とされている。</p> <p>⑤ 帯同レフリー制度及び1試合2レフリー 今年もレフリー経験のないレフリーに対して笛を吹かすことによる改善要望がでた。また、25分ハーフ試合の25分しか吹けないことに対する改善要望が今年度も出た。競技者側からは1試合1レフリーの要望が毎年でている。今年度のレフリー不在、不足のチームは大学チームとなっており、改めて大学委員会にレフリー養成をお願いしたい。</p> <p>⑥ 安全対策 昨年度の苫小牧会場で頸損事故が発生の反省を踏まえ、事故予防対策として事故防止講習会の開催を行った。再度ウスガード普及や義務付けに向けて体制づくりをしていく必要がある。</p> <p>⑦ 事業費 総予算は昨年度より6チーム減となり、77チームになったことにより減収となった。ドクターバッグの整備等に経費が増加し北海道協会事業運営費への収入が予算より155千円ほど少ない結果となった。</p> <p>19年度事業決算 $1,206,738 / 2,730,000 = 1,523,262$ 20年度事業決算 $1,142,338 / 2,580,000 = 1,437,662$ 21年度事業決算 $1,471,677 / 2,760,000 = 1,288,323$ 22年度事業予算 $1,463,000 / 2,760,000 = 1,300,000$ 22年度事業決算 $1,484,359 / 2,630,000 = 1,145,641$</p> <p>経費節減に努め出来るだけ北海道協会事業運営費を作りだすように努めたい</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題	
委員 会 名	ブラッシュアップ研修会 期日 平成22年6月6日(土) 会場 札幌市月寒屋外体育館会議室 月寒ラグビー場 講師 増谷和夫 認定人数 7名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明治大学VS関東学院大学の試合を教材 1. 世界で戦うプレイヤー像の視点からゲーム分析し所見を述べよ。 2. 攻防の原則または、スキル分析に基づいてゲームを分析し、改善点を述べよ。(1200字) 最終的に期日までにレポート提出者7名 シーズンのはじめが良いと思い開催したが結果的には受講生が少なかった。	
	新スタートコーチ資格取得認定講習会 期日 平成22年8月22日(日) 会場 帯広市 帯広工業高等学校 講師 増谷和夫 田村朋弘 増谷龍大 受講者人数 24名	8月開催をスクール指導者から要望があり決まった。 受講生は、北見・美幌・札幌・帯広から参加。何時も、冬の時期だが、今回はグラウンドで暑かったが中身のある講習が出来た。十勝の高校生にモデルをお願いしました。	
	コーチ委員会 期日 平成22年11月6日(土) 会場 札幌 ホテル ハシモト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本年度の事業報告 ・ 各支部の活動状況 ・ 第2回は、次年度の事業計画 	
	コーチセミナー 期日 平成22年11月6日(土) 会場 札幌 定山溪 講師 中竹竜二 参加者 32名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夜遅い時間の講習で参加者が限定されたがコーチにとって実技も入り良かった。 	
	コーチ委員会 期日 平成23年2月6日(日) 会場 札幌 ホテル ハシモト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資格取得については、育成コーチ及び強化コーチ資格希望者を1年かけて募る。 ・ スタートコーチについては、帯広、旭川、北見で実施予定。 ・ コーチ研修会を札幌にて講師を招聘し、23年度は実施する。 	

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【委員会会議】</p> <p>●第1回普及育成委員会 期日 平成22年5月8日(土) 場所 JR北海道研修センター</p> <p>●第2回普及育成委員会 期日 平成23年1月9日(日) 場所 JR北海道研修センター</p> <p>【タグラグビー指導者研修会】</p> <p>第1回 期日 5月23日(日) 会場 北広島市 きたひろサンパーク多目的広場 対象 タグラグビー指導希望者 参加 12名</p> <p>第2回 期日 10月2日(日) 会場 北海道立野幌総合運動公園 対象 タグラグビー指導希望者 参加 10名</p> <p>● タグエデュケーター資格講習会 期日 平成23年3月6日(日) 会場 北広島市立大曲小学校 対象 タグラグビー指導希望者 参加 26名</p> <p>【道協会主催招待試合】</p> <p>●関東学院 v s 明治 前座試合 期日 6月6日(日) 会場 札幌月寒ラグビー場 対象 道央中学選抜 v s 道央スクール選抜</p>	<p>委員会委員構成17名 (出席委員17名)</p> <p>委員会委員構成17名 (出席委員11名)</p> <p><成果></p> <p>①少しでも多くの指導者養成を目的として開催を2回に分け、小学生の授業に向けたタグラグビーの普及への基本コンセプトと指導方法を実施。</p> <p>②タグ担当副委員長による各地での講習で底辺拡大を図れた。</p> <p><課題></p> <p>①小学校教員への浸透が薄く、講習会の開催により今以上の普及が急務。</p> <p>※ 日本協会事業</p> <p><成果></p> <p>日本協会タグラグビー部門長の鈴木氏を講師に迎え、タグラグビーの指導方法を基本から研修を行った。道内各支部におけるタグラグビーの中心的指導者を養成するために実施した。</p> <p><課題></p> <p>各支部でタグラグビーの普及度合いに温度差があるが、今回の参加者がそれぞれの支部において小学校教員へのタグラグビー・ティーチャー研修会を開催し、タグラグビーの普及に努めることとする。</p> <p><成果></p> <p>①中学生選手にとって観客の前でのゲームは大変励みになった。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及教育委員会	<p style="text-align: center;">【各種大会】</p> <p>●第29回北海道スクール中学生大会 ●第22回北海道スクール小学生大会 期日 9月18(土)・19日(日) 会場 旭川市 カムイの杜公園 多目的運動場</p> <p>参加者 小学生 10チーム 230名 中学生 8チーム 90名 指導者 70名 保護者 150名</p> <p>●第7回北海道小学生タグラグビー選手権大会 (兼サントリーカップ第7回全国小学生タグラグビー北海道ブロック大会) 期日 23年1月10日(月) 会場 北広島市総合体育館 参加数 12チーム 選手 114名 帯同コーチ 40名</p> <p>● サントリーカップ 第7回全国小学生タグラグビー決勝大会 平成23年2月26日27日 会場 秩父宮ラグビー場 「富良野へそタグズ」</p>	<p style="text-align: center;">＜成果＞</p> <p>①芝のコンディションも最高の状態のグラウンドを2面使用し、参加人数も前年を上回った。 ②天候にも恵まれ、中学生は18日19日の2日間にわたってのリーグ戦を行い、予選順位をもとに優勝決定戦とする方法を取った大会となった。 ③小学生大会においても、親善試合では有りましたが元気一杯のゲームとなった。 ④年1回の北海道全てのスクール選手による賑やかな大会であった。 ⑤毎年の事だが、各スクール共、熱心で献身的な指導者と保護者に支えられて継続されている大会として更なる発展のためにスクール生拡大の必要性を認識した。</p> <p style="text-align: center;">＜課題＞</p> <p>①ジュニアにあっては、安全対策を第1と考え1年生と2・3年生カテゴリーを分けて実施する。更にスクール生不足の折、1チームを編成できないスクールも有り、合同チーム編成での対戦となる事も現状では致し方ない。</p> <p style="text-align: center;">「支部予選参加チーム数」</p> <p>・函館 7チーム ・札幌 14チーム ・空知 4チーム ・富良野 14チーム ・十勝 16チーム 計 55チーム</p> <p style="text-align: center;">＜成果＞</p> <p>①支部予選チーム数は支部に増減はあるものの、昨年より総数で1チーム増加した。だが、開催に至らなかったところが5支部あり、更に来年度実施に向け努力をしていく。 ②回を重ねるごとに選手のプレーも向上し、フルラグビーとは別の魅力をもったタグラグビーの良さを存分に発揮している。 ③会場の広い体育館に変更し、観客席もあり応援の保護者からも好評であった。会場は将来も継続の予定。</p> <p style="text-align: center;">＜課題＞</p> <p>①学習指導要領に入ったこの時期に、小学校へのアピールを道協会や支部協会との連携で積極的に進めていくべきである。 ②実施していない支部もあり、2010年に向けて全支部の実施を目指す。</p> <p style="text-align: center;">＜成果＞</p> <p>① 予選プール1勝2敗で3グループのボウルトーナメント出場 ② 石塚賞を受賞、「富良野へそタグズ」は、試合以外でも笑顔で礼儀正しくまわりの人に接し、また試合中でもタグの受け渡しを丁寧にし、フェアプレーで気持ちの良いチームであると総合的に判断され受賞した。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【強化合宿】</p> <p>◆第1次強化合宿 8月29日(土)～30日(日) 於：北海道バーバリアンズ定山溪グランド 参加 選手40名 コーチ19名</p> <p>◆第2次強化合宿 10月2日(土)～3日(日) 於：野幌運動公園ラグビー場 参加 選手25名 コーチ12名</p> <p>◆第3次強化合宿 11月6日(土)～7日(日) 於：小樽望洋台グランド 参加 選手22名 コーチ10名</p> <p>●U-15選抜北海道ジュニア合宿 期日 23年2月12・13日(日) 場所 札幌市 定山溪 北海道バーバリアンズ室内練習場 参加選手34名(スクール・中学校) コーチ 10名</p>	<p><成果> ジュニア競技水準の向上を図るとともに、東日本ジュニアスクール大会参加チームの選抜及び強化を目的として、3回の強化合宿を実施した。</p> <p>① 選抜チーム指導員の定着が図られ、強化方針の共有が実現した。</p> <p>② ミニ・ジュニアを中心としたスクール・クラブジュニアチームの最終的な目標となり、参加のモチベーションも年々向上している。</p> <p>① 交流会事業の合同練習会を含めて、北海道協会としてのジュニア指導のスキームが確立した。</p> <p><課題></p> <p>① ジュニア強化は選手数の増加が必須。中学生の競技人口の拡大を図りたい。</p> <p>② ミニ・ジュニアの各チームの指導項目・方法等の共有化を促進するため、道協会HP内に指導資料の共有フォルダの作成し、利用が図られている。</p> <p>③ 各スクール間が遠く競技力向上のための定期的な交流が不足しており、合同練習会及び強化合宿のほか、交流事業を含めて実施したい。</p> <p>④ 高校のラグビー部との連携をはかり、普及および強化を図りたい。また高校指導者との協力によって指導方法の統一化を検討したい。</p> <p><成果></p> <p>①3月中旬に開催される「東日本U15選抜大会」に向けて、道内スクールと中学校合同チームのセレクションを実施する強化合宿となった。</p> <p>②スクール・中学校の枠を超えて北海道のジュニアラグビーの基本コンセプトの共有化を指導者が確認できた。</p>

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会	<p>【交流戦】 ● 22年度北海道中学生交流試合 期間 6月6日～10月17日</p> <p>会場 野幌総合運動公園ラグビー場 北海道バーバリアンズ定山溪グラウンド 小樽望洋台グラウンド</p> <p>開催内容 交流試合10試合 合同練習会(6/12～13)</p> <p>【東日本スクール大会】 1stステージ 期日 10月17日(日) 会場 青森市スポーツ広場ラグビー場 参加 北東北選抜、岩手選抜、北海道選抜</p> <p>2ndステージ 期日 11月13日(土)～15日(日) 会場 千葉県習志野ラグビー場他 参加 東日本地域の選抜チーム(14地区)</p>	<p><成果> 道央地区のスクール・クラブ及び中学校チームが参加し、通年にわたって交流試合を実施した。また、全道のチームを対象に合同練習会を実施し、指導方針・方法の確認、選手の基本スキルの向上ならびに道内対象チームの交流親睦を図った。</p> <p>① チーム指導上大きな利点がある。マネジメントは大変だが今後も積極的に実施する。 ② ミニの試合も導入した、高学年にあつてはモチベーションの高揚になった。</p> <p><課題> ① 今年度の特徴として、全道的にジュニア選手の人数が少なく、単独チームでの構成が困難なチームが大部分で、合同チームの試合が増え日程調整に困難があった。 ② 学校行事および各チームや地区行事によって、今年度は十分は交流試合が実施できなかった。</p> <p><次年度の取り組み> ① 次年度も12人制ラグビーでは、今年度同様選手の人数が十分でないことから、7人制を導入、主たる大会競技として位置づけたい。 ② ミニラグビーの試合数が全体に少ないことから、交流大会に積極的に導入したい。 ③ 全道的な参加を即したい 合同練習会を早期に実施し、基本的な指導方針の浸透を図りたい</p> <p><成果> ① 今年度のスクール3年生の人数が少なく、2年生が多数選抜された。 ② 1stステージの東北・北海道予選で3チーム中2位通過。2ndステージ「プレートトーナメント」では1勝2敗でプレート4位の成績に終わった。</p> <p><課題> ① 関東協会からの旅費補助金額が年々削減されており、運営会計上非常に厳しいものとなっている。(選手負担増として) ② 北海道選抜チームは年々強化の成果が見られるが、全国的にレベルが向上しており、更なる指導方針の改善と、選手の強化が必要である。 ③ 全国的に指導員の若返りが図られており、特に30代の指導員の登用を検討したい。</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会(中学校担当)	<p>●第1回全国中学校ラグビーフットボール大会 北海道予選会</p> <p>期日 6月11日(金)～12日(土)</p> <p>会場 月寒ラグビー場</p> <p>参加校 函館ラ・サール中学校(22名) 立命館慶祥中学校(20名) 北嶺中学校(17名)</p>	<p>〈成果〉</p> <p>①初めての大会であったが、天候にも恵まれ滞りなく実施できた。</p> <p>②年度の早い時期に大会を開くことにより、チームの意識が多いに向上した。</p> <p>③参加3チームのリーグ戦を2日で実施するため、前半のみの変則的なリーグ戦を行った。</p> <p>〈課題〉</p> <p>①3校の参加であった。参加校の増加が課題である。</p> <p>②変則リーグだと、条件が揃わない場合がある。</p> <p>③金曜日の試合はレフリーの確保が難しい。</p> <p>〈試合結果〉</p> <p>6月11日 月寒 G 函館ラ・サール 5-24 立命館慶祥 函館ラ・サール 7-5 北嶺 立命館慶祥 7-10 北嶺</p> <p>6月12日 G 函館ラ・サール 0-14 北嶺 立命館慶祥 0-7 北嶺 函館ラ・サール 5-10 立命館慶祥</p> <p style="text-align: center;">優 勝 北嶺中学校 準優勝 立命館慶祥中学校 第3位 函館ラ・サール中学校</p> <p>〈上位大会結果〉</p> <p>第1回北海道・東北中学校ラグビーフットボール大会 平成22年7月18日(土)～19日(日) 秋田県新屋運動広場</p> <p>準決勝 北嶺 0-53 山形第一(山形) 三決戦 北嶺 7-7 滝沢南(岩手)</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
普及育成委員会(中学校担当)	<p>●第29回北海道中学校ラグビーフットボール大会</p> <p>期日 9月10日(金)～12日(日)</p> <p>会場 函館市根崎ラグビー場</p> <p>参加校 函館ラ・サール中学校(22名) 立命館慶祥中学校(19名) 北嶺中学校(19名)</p>	<p>〈成果〉</p> <p>①参加数3チームであったが、選手たちの目的意識は高く、年々質の高い試合内容に近づいている。</p> <p>②参加3チームなので予備日を追加して3日日程のリーグ戦で行った。体力面・安全面からも妥当であった。</p> <p>③道協会、函館協会、ラ・サール中学校の関係者の協力で滞りなく実施できた。</p> <p>④開閉会式の司会を運営を生徒が行うのは教育上素晴らしい。</p> <p>〈課題〉</p> <p>①3校の参加であった。参加校の増加が課題である。</p> <p>②3チームでリーグ戦を行うには、3日間の日程と会場の確保が必要である。</p> <p>③金曜日の試合はレフリーの確保が難しい。</p> <p>〈試合結果〉</p> <p>9月10日 根崎 G 函館ラ・サール 17-36 北嶺</p> <p>9月11日 根崎 G 函館ラ・サール 17-10 立命館慶祥</p> <p>9月12日 根崎 G 立命館慶祥 5-33 北嶺</p> <p style="padding-left: 20px;">優 勝 北嶺中学校 準優勝 函館ラ・サール中学校 第3位 立命館慶祥中学校</p> <p>〈上位大会結果〉</p> <p>第5回 東北・北海道中学校代表決定戦 平成22年9月25日(土)～26日(日) 岩手県盛岡南公園球技場</p> <p>準決勝 北嶺 59-0 滝沢南(岩手) 決 勝 北嶺 0-55 秋田北(秋田)</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	北海道高等学校U17強化指導講習会 〈日本協会 U17ブロックトレセン〉 期 日 5月1～5月3日 会場 北見市南町河川敷Aラグビー場 北見北斗高校	指導者 中竹 竜二 氏(日本協会) 道 内 小野泰章・中澤孝弘・林英孝 指導者 岸本泰輔 参加者 生徒45名 〈成 果〉 継続的な指導が参加選手からチームへ 浸透している。
	普及指導講習会(15人制交流大会) 〈全国高体連ラ専門部 U18交流会〉 期 日 5月1～5月3日 会場 北見市南町河川敷Bラグビー場 北見北斗高校	指導者 浅井邦昭・福田彰一・佐藤幹夫 鈴木大介・成田正人・山内宣明 平間慎理・山口昂希・田村朋弘 中野茂樹 参加者 生徒80名 レフリー5名 (奈良・佐藤・野々川・大山・伊藤) 〈成 果〉 選手は意欲的で能力も高く、全国大会に 向けて良い練習、試合ができた。
	平成22年度北海道体育大会 兼第65回国民体育大会北海道予選会(少年男子の部)ラグビーフットボール競技第65回 国民体育大会北海道予選会 少年の部 期 日 6月11日(金)～14日(月) 会 場 帯広の森球技場 2面	会 場 帯広市 帯広の森球技場 参加者 440名 (引率含む) 成 果 〈成 果〉 平成16年度から十勝支部で行っている 国体道予選も今年で7回目になる。17年 度からはU17のトーナメントも実施し、道 内高校生の競技力向上と普及活動につな がっている。大会運営ではポール設営、記 録等に十勝支部協会クラブ・大学委員会か ら多くの協力を得ながら、スムーズに競技 進行することができた。 〈課 題〉 年々ラグビー部員の減少に伴い少年 A、Bの8支部代表トーナメントが難しく なり、少年Bは20年度、少年Aは21年度 から参加チーム数、支部割りを考慮しなが ら大会方式を変更してきている。 8支部対抗戦3日日程においては選手 選考がしっかり出来る反面、支部によっ ては経済的負担が大きいことから辞退する 選手がいる現状である。

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	<p>第37回北海道高等学校選抜ラグビーフットボール大会 7月27、29、30日 野幌総合運動公園 月寒ラグビー場</p> <p>優勝 札幌山の手高校</p>	<p>〈成果〉 茨城県のつくば秀英高校・兵庫県の神戸市立科学技術高校を招待し、道内各地区代表10校の合計12チームで実施いたしました。 道外の強豪校との交流による北海道地区のレベルの向上を目指し、大会も37回を数えることとなりました。本年度から試合経験を増やすねらいで予選リーグ・決勝トーナメントと試合形式を変えました。 結果は、札幌山の手高校が優勝、神戸市立科学技術高校が準優勝し、北海道地区もレベルの向上が実感できる大会となりました。</p>
校 委 員 会	<p>第20回北海道高等学校1年生U16ラグビーフットボール大会 期 日 8月7(土)8日(日) 会 場 北見市南町ラグビー場</p>	<p>U16〈成果〉 ① 1年生選手の交流、ゲーム理解、強化につながっている。 ② 安全面を配慮し、予選・決勝各10分ハーフでの実施。</p> <p>〈課題〉 ① 参加チームの減少に伴う組み合わせ方法(今年13チーム) ② 試合以外の企画(北見在合宿中のトップリーガー講習会など)</p>
委 員 会	<p>第63回北海道高等学校ラグビーフットボール大会南北選手権大会 期 日 9月21～25日 会 場 北見市モイワスポーツワールド 北見市東陵運動公園</p> <p>代表校 南北海道 札幌山の手高等学校 北北海道 遠 軽高等学校</p>	<p>〈成 果〉 高校生ラグビーマンの目標である大会。</p>
委 員 会	<p>第13回北海道高等学校セブンズラグビーフットボール選手権大会 期 日 10月2、3日 会 場 月寒ラグビー場 野幌運動公園(代表者会議)</p>	<p>〈成 果〉 各地区の新人戦の予選と重なり厳しい日程の中、札幌支部の協力得て(大麻高校)開催できた。</p> <p>〈課 題〉 I 会場 他地区での開催も検討の必要あり。</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	<p>第18回北海道高等学校ラグビーフットボール新人大会兼第12回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予選大会</p> <p>期 日 10月20、21、23日 会 場 定山溪バーバリアンズグラウンド</p> <p>北海道高等学校U16強化指導講習会 〈日本協会 U16ブロックトレセン〉</p> <p>期 日 11月6、7日 会 場 札幌市定山溪ラグビー場 指導者 中竹竜二(日本協会)</p>	<p>Ⅱ大会運営</p> <p>① チーム数の確保(9チームを確保したい) 今年度の参加は6チームだった。</p> <p>② 協力校の負担増(札幌支部は地区新人戦の日程で苦慮。)</p> <p>③ 大会日程を1日日程にする。 全国大会に習って来年度は1日日程にしたい。しかし、1日4試合が基本となるため、参加選手の安全面などは十分考慮。</p> <p>参加者 260名 12チーム</p> <p>〈成 果〉</p> <p>① 多くの協力を得て、大会初の12チームによる予選リーグ、決勝トーナメント方式の大会を実施し成功した。</p> <p>② 試合数が増えたことにより、各チームの強化や、北海道代表のセレクションが充実した。</p> <p>〈課 題〉</p> <p>平日開催、試合増によるレフリーの人数確保。 開催日程(雪などの気候、各校の見学旅行日程等)</p> <p>〈成 果〉</p> <p>今年度から日本協会が始めた事業であり、オリンピック、2019ワールドカップの代表適齢期である選手層に、現在の体力数値を詳細に提示することで自己管理意識を持たせる良い機会であった。</p> <p>〈課 題〉</p> <p>北海道の短いシーズンにまた一つ事業が入り調整が必至である。</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 校 委 員 会	北海道高等学校U17強化指導講習会 期 日 11月6、7日 会 場 札幌市定山溪ラグビー場 指導者 中澤、林、岸本	〈成 果〉 5月北見、7月菅平の代表選手とバック アップメンバー十有望選手を招集し3月 の関東遠征の候補選手の絞り込みができた。
	第6回全国高等学校合同チーム大会 期 日 7月26～29日 会 場 長野県上田市菅平高原 U17 (予選リーグ) 7/27(火) (決勝リーグ) ボウル 7/29(木)	〈課 題〉 例年より1回多い選手招集となった。 U17 対 九州代表 19-19 東海代表 41-0 (予選 1勝1分) 対 東北代表 0-38 四国代表 31-12 (決勝 1勝1敗)
	U18 (予選リーグ) 7/27(火) (決勝リーグ) カップ 7/29(木)	U18 対 九州代表 0-24 東海代表 5-17 (予選 2敗) 対 東北代表 0-38 四国代表 31-12 (決勝 1勝1敗)
	第65回 国民体育大会 本大会 期 日 10月1日 会 場 千葉県市原市スポレクパーク	結果 7-29 島根県
	U18 東西対抗戦 1月8日 出場選手 湧 別高校 入江祥平 札幌厚別高校 大西泰揮 小川雅矢 札幌清田高校 三浦大昇 三浦寛輝 白畑 瞭 小樽桜陽高校 佐藤 洋	東軍 12-19 西軍 東軍監督 札幌清田高校 猪股貴則 〈成果〉 選手は7名と過去最多選出される、合同チ ームの大きなモチベーションになっている

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
高 専 委 員 会	第46回北海道高等専門学校体育大会ラグビーフットボール競技 兼 第41回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会北海道地区予選 平成22年10月9日(旭川)	函館高専 対 旭川高専 110 0
	第41回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会 平成23年1月4日～9日(神戸)	2回戦 函館高専 対 宇部高専 28 7
		準決勝 函館高専 対 奈良高専 20 32

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大 学 委 員 会	<p>平成22年度北海道地区ラグビーフットボール学生連盟強化講習会</p> <p>開催日：平成22年5月8日、9日</p>	<p>会場：野幌ラグビー場</p> <p>〈成果〉</p> <p>(1) 参加者は5大学から20名。講師の石井信輝さん（摂南大学准教授）と川口勉さん（東芝ブレイブルーパスOB）を招き、昨年に引き続き基本プレーの練習法やブレイクダウンの攻防のポイントなどを学んだ。</p> <p>(2) 初日の講習会は、基本プレーの練習方法やラインブレイクやコンタクトについて攻守それぞれの視点に立った練習を細かく指導を受け、各チームとも参考になったと思われる。2日目は、ハンドリング（パス）やサポートラン等の指導を受け、ポジション別ではFW：ラインアウト・スクラム、BK：パス・ランニング・キック処理の練習、最後に体幹トレーニングを行った。参加学生は例年以上に意欲的に取り組み、短期間で自身の成長を感じた学生も数多くいたのではないと思われる。実りある講習会となった。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1) 講習内容について、事前に学生から要望を聞き、その要望から講習内容を決めて参加募集する計画で進めたが、年度代わりの時期でもあったため予定より講習内容の告知が遅れ、さらに行事等が重なり参加できない大学があったため、参加人数が昨年より減少した。次年度は日程調整を検討する必要がある。</p> <p>(2) 講習内容は、昨年度から上乘せする内容であったが、大学ラグビーのレベルアップを図るためには、さらに上乘せを図れるような方策（参加者の半数は前年度参加者にし、それらは参加費も半額程度にするなど等）を検討する必要があると思われる。</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大 学 委 員 会	<p>第12回北海道地区大学セブンズラグビーフットボール大会</p> <p>開催日：平成22年7月25日(日)</p>	<p>会場：月寒ラグビー場</p> <p>〈成果〉</p> <p>(1) 6チームが参加した1部は道都大学Aが優勝、7チームが参加した2部は道都大学Bが優勝した。道都大学は2011年5月に秩父宮ラグビー場で開催される東日本大学セブンズ大会に北海道代表として参加する。なお1部は3チームずつのリーグ戦+順位戦方式で実施した。</p> <p>(2) 毎年、この大会が月寒ラグビー場で開かれることで、選手の参加意欲、モチベーションは高まっている。</p> <p>(3) 専修大学北海道短期大学部と旭川医大は、インカレには参加せず(旭川医大は合同チームとして参加)このセブンズ大会にのみ参加した。</p> <p>(4) 毎回参加してくれるレフリーが多く、レフリー間の交流も深まっている。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1) 全国大会へ出場できる1部への参加が少ない。</p> <p>(2) プレイヤー以外、すなわち一般観客にも足を運んでもらえるような工夫が必要である。</p>
大 学 委 員 会	<p>第40回北海道地区大学選手権大会兼第18回全国大学選手権大会予選兼第61回全国地区対抗大学大会北海道予選会</p> <p>開催日：平成22年9月20日～10月24日</p>	<p>会場：各地区のグラウンド、帯広の森ラグビー場、小樽望洋台グラウンド、野幌ラグビー場、月寒ラグビー場</p> <p>〈成果〉</p> <p>(1) 参加チームは1部リーグ6校、2部トーナメント14チームで、前年と同数であった。2部には3チームが合同チームとして参加した(前年は1チーム)。</p> <p>(2) 結果、</p> <p>1部： 優勝 北海道大学 準優勝 道都大学</p> <p>2部： 優勝 北海道教育大学函館校 準優勝 北海道教育大学札幌校 岩見沢校合同チーム</p> <p>入れ替え戦の結果、 1部と2部の入れ替えなし</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
大 学 委 員 会		<p>(3) 全国大会</p> <ul style="list-style-type: none">・東北北海道地区代表決定戦 北海道大学 43-5 東北学院大学・関東第5代表決定戦 筑波大学 62-0 北海道大学・全国地区対抗大学ラグビー大会 徳山大学 45-15 道都大学 <p>(4) 1部は3人レフリー体制に加え、メディカルと水係がビブスを着用することとし、公式戦の緊張感を得ることができた。</p> <p>(5) 集中開催は札幌の他、帯広と小樽で行った。支部の方々の協力を得てすべていいゲームが実施できた。</p> <p>(6) 月寒ラグビー場での最終ゲームは、例年同様、すべて接戦が展開され、人数は少ないが一般観衆の定着化も進んでいる。</p> <p>〈課題〉</p> <p>(1) 2部の試合で人数不足によるキャンセルが1件あった。また、1部2部ともに、15人以下での試合を余儀なくされるケースがあった。部員数が少ないチームのモチベーションを下げない工夫も必要である。</p> <p>(2) 公式戦に参加する姿勢が見られないチームがまだ多い。ただし、プログラムの掲載写真や試合会場におけるマナーは前年よりは改善されていた。</p> <p>(3) トップリーグの開催日が早くわかると、試合日程、場所を決める上では助かる。高校の大会と日程が重なる場合のレフリー依頼が毎年ながら困難であった。</p> <p>(4) 1部上位チームと他チームとの差が開きつつある。</p>

平成 22 年度 各委員会活動報告

委員会名	事業名及び 実施月日	成果及び課題
社 会 人 ・ ク ラ ブ 委 員 会	第 36 回北海道クラブラグビーフットボール選手権大会兼 第 20 回東日本クラブラグビー トーナメント大会北海道予 選会	【北海道トップリーグの部】 ー平成 22 年 5 月 23 日ー OTARU R.F.C 3 対 24 サッテツクラブ (小樽市望洋) 上磯ラガー 0 対 94 北海道バーバリアンズ A (北斗市運動公園)
	平成 22 年 5 月 23 日 ～ 平成 22 年 10 月 10 日	ー平成 22 年 6 月 13 日ー 上磯ラガー 45 対 10 OTARU R.F.C (函館市根崎) 北海道バーバリアンズ A 92 対 14 サッテツクラブ (札幌市定山溪)
		ー平成 22 年 7 月 25 日ー サッテツクラブ 20 対 27 上磯ラガー 北海道バーバリアンズ A 76 対 5 OTARU R.F.C (上記 2 試合とも札幌市定山溪)
		<北海道トップリーグの部順位> 優勝 北海道バーバリアンズ A (3 勝) 2 位 上磯ラガー (2 勝 1 敗) 3 位 サッテツクラブ (1 勝 2 敗) 4 位 OTARU R.F.C (3 敗)
		※優勝した北海道バーバリアンズが東日本トップクラブリー グの出場資格を有しているため、2 位の上磯ラガーが北海道 代表として東日本クラブラグビートーナメント大会へ出場。 上磯ラガーは 11 月 14 日に埼玉県熊谷市で YC&AC (首都 圏 1) との同トーナメント大会準決勝に臨むも、19 対 62 で惜 しくも敗退となった。
		【北海道チャレンジリーグの部 (道北・道東ブロック)】 ー平成 22 年 8 月 29 日ー とかチェス 59 対 5 ASAHIKAWA (帯広市十勝川河川敷) OKHOTSK BLUE R.F.C 44 対 15 釧路・岩見沢ラガー (北見市東陵公園)
		ー平成 22 年 9 月 5 日ー とかチェス 29 対 7 OKHOTSK BLUE R.F.C 釧路・岩見沢ラガー 65 対 22 ASAHIKAWA (上記 2 試合とも帯広市帯広の森)
		ー平成 22 年 9 月 12 日ー ASAHIKAWA 10 対 57 OKHOTSK BLUE R.F.C (留辺蘂町旭運動公園) 釧路・岩見沢ラガー 17 対 70 とかチェス (釧路市釧路川河川敷)

委員会名	事業名及び 実施月日	成果及び課題
社 会 人 ・ ク ラ ブ 委 員 会		<p><チャレンジリーグの部（道北・道東ブロック）順位> 1位 とかチェス（3勝） 2位 OKHOTSK BLUE R.F.C（2勝1敗） 3位 釧路・岩見沢ラガー（1勝2敗） 4位 ASAHIKAWA（3敗）</p> <p>【北海道チャレンジリーグの部（道央・道南ブロック）】 －平成22年8月29日－ 札幌クラブ 38対26 北海道バーバリアンズB FFクラブ 17対86 Bulldogs （上記2試合とも江別市野幌）</p> <p>－平成22年9月5日－ 札幌クラブ 30対12 FFクラブ 北海道バーバリアンズB 83対0 Bulldogs （上記2試合とも札幌市月寒）</p> <p>－平成22年9月12日－ Bulldogs 7対24 札幌クラブ（函館市根崎） 北海道バーバリアンズB 90対5 FFクラブ （札幌市月寒）</p> <p><チャレンジリーグの部（道央・道南ブロック）順位> 1位 札幌クラブ（3勝） 2位 北海道バーバリアンズB（2勝1敗） 3位 Bulldogs（1勝2敗） 4位 FFクラブ（3敗）</p> <p>【チャレンジリーグの部 決勝】 －平成22年9月26日－ とかチェス 49対5 札幌クラブ（札幌市月寒）</p> <p>※とかチェスが北海道チャレンジリーグの部で優勝し、トップリーグ4位の OTARU R.F.C との入替戦の権利を得る。また、同部準優勝の札幌クラブがトップリーグ3位のサッテツクラブとの入替戦の権利を得る。</p> <p>【入替戦】 －平成22年10月10日－ ① サッテツクラブ 75対0 札幌クラブ ② OTARU R.F.C 18対15 とかチェス （上記2試合とも小樽市望洋）</p> <p>※サッテツクラブと OTARU R.F.C が北海道チャレンジリーグ優勝・準優勝の2チームをそれぞれ破り、次年度北海道トップリーグ残留決定となる。</p>

委員会名	事業名及び 実施月日	成果及び課題
社会人・クラブ委員会		<p><総 評></p> <p>今年度は、出場チームが前年度から2チーム増え、北海道トップリーグ4チーム、北海道チャレンジリーグ4チーム×2ブロックの合計12チームの参加により大会を実施することができた。</p> <p>道トップリーグでは、すでに全国的に強豪クラブとして知られている北海道バーバリアンズAが、その実力を発揮し、圧倒的な力の差を見せて優勝を果たした。東日本クラブトーナメント大会の出場権をかけた戦いは、上磯ラガー対サツテツクラブ戦で決することとなり、試合終了間際まで同点かと思わせる拮抗した内容であったが、最後まで集中力を保った上磯ラガーが残りわずかの時間に勝ち越ストライを決め2位の座を確保、本大会の出場権を獲得した。</p> <p>道チャレンジリーグでは、とかチェスがFW・BKともに充実しており、安定した戦いぶりで道北・道東ブロックを制した。とかチェスは、チャレンジリーグ優勝決定戦でも、前年度の同リーグ優勝チームで道央・道南ブロックで1位となった札幌クラブを圧倒し勝利をものにした。</p> <p>北海道の広いエリアを移動しての試合では、選手やスタッフの負担が大きい中、各チームの努力で大会を行う事ができた。</p> <p><大会運営に関して></p> <p>道トップリーグに関しては、ここ数年同様の形態で実施していることもあり、ほぼ順調といえる大会運営ができたものの、競技運営にあたるスタッフが同会場で試合をするクラブの選手や自チームのスタッフを兼ねている場合もあり、いつもぎりぎりの人数での大会運営となっている。</p> <p>また、道チャレンジリーグでも、運営にあたるスタッフの人手不足は顕著で、各地区のクラブ委員だけでは試合を支えることは難しく、各支部の役員やその他チーム関係者の皆さんに支えていただき運営することができた。</p> <p>なお、レフリーの割り付けに関しては、道協会レフリー委員会並びに各支部のレフリー委員会のご協力でご協力者の手配をしていただいた。高校や大学、クラブの大会等、試合日程が重なる中、各レフリーの皆さんの負担は大きく、社会人・クラブ委員会として改めて感謝申し上げる。</p> <p><課題等></p> <p>前記のとおり、慢性的な競技運営スタッフ不足は深刻である。各クラブにおいても、メディカルサポーターや水係、ボール係や記録係など、試合を行うには、選手のほかにも試合を支えるチームスタッフが必要であり、それら人員の確保に苦労しているのが現状である。</p> <p>今後は、プレーヤーの確保はもとより、クラブや大会を支える担い手の育成が重要な課題である。</p>

委員会名	事業名及び 実施月日	成果及び課題
社会人・クラブ委員会	<p>第7回東日本トップクラブリーグ（ディビジョン1）</p> <p>平成22年9月12日 （札幌市月寒）</p> <p>平成22年9月26日 （札幌市月寒）</p>	<p>関東協会主催の東日本トップクラブリーグ2試合が札幌市月寒屋外競技場において開催された。</p> <p>北海道バーバリアンズ 15対5 駒場WMM</p> <p>北海道バーバリアンズ 16対16 三鷹オールカマーズ</p> <p>※北海道バーバリアンズは、9/12に駒場WMMに勝利したあと、三鷹オールカマーズ戦では引き分けとなる。</p> <p>その後、道外で行われた2試合を1勝1敗で終え、リーグ5チーム中2位の成績で、同1位のタマリバ（神奈川県）との優勝決定戦（決勝）に臨むことになった。</p> <p>11/21に東京秩父宮ラグビー場で行われたタマリバとの東日本トップクラブリーグ決勝では、北海道バーバリアンズがFW戦で優位に立ち、終始攻勢に試合を運び40対24で勝利する。北海道バーバリアンズは同リーグ戦初優勝。東日本トップクラブリーグの前身の東日本クラブ選手権大会を含めると8年ぶり3回目となる東日本クラブの頂点である。</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
メ デ イ カ ル ・ 安 全 対 策 委 員 会	<p>1、メディカルサポーター養成・更新講習会 平成21年4月17日 旭川支部（林） 平成21年7月2日札幌、全道大会前日（森）</p>	<p>安全対策上の問題点については、内容がメディカルサポーター養成講習と安全推進講習と同様なものとなり差別化が難しくなっている。 並行して講習会を行うのは講師確保の点から、あるいは時間的にも困難になりつつある。</p>
	<p>2、グラウンドドクター派遣 5月1～3日 北見 合同チーム交流大会兼普及指導講習会（荻原） 6月6日 札幌 協会招待試合（林、森、本間、白石） 6月11、12、14日 帯広 国体予選少年の部（1名） 7月3、4、11日野幌 千歳 苫小牧 定山溪 北海道ラグビーフットボール選手権大会（総計 10名） 8月1、4、7、10、13日 野幌 東日本医科大学体育会（総計10名） 9月19日 札幌 ジャパントップリーグ（林 本間 白石） 9月18、19日 旭川 スクール大会（辻 原） 9月22～25日 北見 高等学校南北選手権兼北海道予選会（荻原） 10月9日 旭川 全国高専大会予選会（林）</p>	<p>グラウンドDr派遣について、今後とも努力していくが、地域の医師不足と同様に確保が困難となっている。 このような中で北海道ラグビーフットボール協会推薦で日体協のスポーツドクターの資格を2名が習得している。今後もこういったラグビーに理解のあるDrを養成していきたい。</p>
	<p>3、安全推進講習会 3月14日 函館支部開催 （函館ラグビーハウス 三浦） 参加20 3月28日 帯広支部開催 （帯広市民農園サラダ館 田村） 参加13 4月3日 札幌支部開催 （札幌市ちえりあ 平野） 参加99 4月10日 空知支部開催 （芦別アンシントンホテル 坂東） 参加10 4月17日 旭川支部開催 （旭川農業会館 林） 参加35 根釧支部開催 （中標津町文化会館 三ヶ田） 参加18 4月25日 北見支部開催 （北見北斗高校 浅井） 参加20 6月6日 札幌支部開催 （札幌市ちえりあ 平野） 参加9</p>	<p>平成22年度も全てのチームが安全推進講習会受講した。 毎年開催されると思われ今後とも各支部の関係者各位にはご尽力を賜りたい。</p>

平成 22 年度 広報委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
広報委員会	1. ホームページによる情報発信 2. マスコミ対応 3. 地域向けの広報活動 4. 有料試合及び大会での広報活動	<p><活動内容></p> <p>1. ホームページ情報発信</p> <p>1.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 競技者、協会組織員、関係者、家族、ファン及び社会へ活動の公開と情報共有化並びにダイレクトコミュニケーション ・ マスコミ報道の誘導 <p>1.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営管理、メンテナンス ・ 各委員会との連携による試合内容・日程・結果の情報発信 ・ 有料試合のプロモーション <p>2. マスコミ対応</p> <p>2.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 報道関係者との関係構築による協会への理解促進及び記者の関心事の把握 <p>2.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協会情報、事業計画及び大会・イベントなどの報道資料の提供 ・ イベントの共催、協賛広告出稿 <p>3. 地域向け広報活動</p> <p>3.1 目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・自治体・公的機関との関係構築 ・ 広告協賛及び有料試合チケット販売促進 <p>3.2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大会、イベントの情報発信 ・ 有料試合ポスターの掲示 ・ 有料試合におけるチケット販売 <p>4. 有料試合及び大会での広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ポスターの作成、掲示並びに配布 ・ 記者会見、会見レポート作成 ・ 協賛企業の広告掲載 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供システムとして、ホームページのトップページに月間スケジュール表を掲載し、大会担当者からの情報提供と管理者の情報入手の確認が随時できるようにし、全ての情報をタイミングよく発信したが、今後も関係者に周知を図り活用する。

平成22年度 ゴールデンオールディーズ委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
ゴールデンオールディーズ	<p>* 6月5日(土) 第1回ゴールデンオールディーズ委員会</p> <p>* 6月6日(日) 招待試合 関東学院大学対明示大学 競技役員にて協力</p> <p>* 9月18日(土) 第2回ゴールデンオールディーズ委員会</p> <p>* 9月19日(日) 招待試合 サントリーサンゴリアス 対NECグリーンロケット 競技役員にて協力</p>	<p>* 競技役員として大会運営に参加</p> <p>* 会議を持ち意見交換ができた</p> <p>* 札幌を中心に新会員が増えている。全道に声をかけ、ラグビーの普及、大会への協力をもっと活発に出来る体制を作らなければならない</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
規律委員会	<p>第1回規律委員会 日時 平成22年7月10日(土) 場所 月寒競技場会議室</p>	<p>【議事内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 第40回北海道ラグビーフットボール選手権大会(野幌ラグビー場 平成22年7月4日準決勝)における、北海道バーバリアンズ対サツテツクラブの試合において、サツテツクラブの選手が、北海道バーバリアンズの選手に殴打されたことに対して申し出があり、緊急の規律委員会を開き協議した 規律委員会では、申し出のあった殴打については、現認はされていないが、事実とすれば、1試合で2度も殴打し、シンビンを命じられている。(当該選手は後半にラフプレー(殴打)によりシンビンを命じられている) 次回のゲームについても係る行為が発生することが懸念されることでもあり、また北海道のチャンピオンを決める大事なゲームで注目度の高い試合であることから、当該選手については、次回の試合(決勝戦)は出場停止の処分とし、チームに対して文書で通告した。 また、規律委員会では、受傷者の手当を行ったマッチドクターの意見を聴取、また関係チームおよび選手から状況等の聴取・確認を行ったうえで、再度規律委員会を開催することを決定した。
	<p>第2回規律委員会 日時 平成22年7月28日(水) 場所 (株)開発工営社会議室</p>	<p>【議事内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 7月4日の北海道ラグビーフットボール選手権準決勝における、申し出にあった殴打の状況等について両チームおよび選手から聴取・確認を実施したあと、同日規律委員会を開催し、処置を決定した。また、北海道バーバリアンズについては、7月11日の北海道ラグビーフットボール選手権決勝戦において、再び「不正なプレー」により退場者を出すに至った経緯についても協議した。 北海道バーバリアンズの殴打したとされる選手に対しては、ドクターの所見も含めて粗暴な障害行為があったと認識し、看過できないと判断したが、物的証拠不明につき、文書による「嚴重注意」とした。

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
規律委員会		<p>3. 7月11日の北海道ラグビーフットボール選手権決勝戦対北海道大学戦において、前半30分寝ている選手の胸部を故意に踏みつける行為でシンビン、その解除直後に危険なハイタックルをして退場処分となった北海道バーバリアンズの選手に対しては、4週間の「対外試合出場停止」とした。</p> <p>4. 北海道バーバリアンズに対しては、同様の行為が二度と起こらないように、チームとしての具体的な「再発防止計画書」を提出させることとした。</p> <p>【課題】 「殴打などの粗暴なプレー、不正なプレーはラグビーフットボールの健全な発展の妨げになることをチーム責任者、選手各自が再認識する必要がある。」</p>

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
財務委員会	<ul style="list-style-type: none">① 北海道選手権大会記念 Tシャツ & ポロシャツの販売② オフィシャルネクタイの販売③ 写真データの販売	<ul style="list-style-type: none">① 40回大会記念 Tシャツ & ポロシャツは、基本デザインから好みのデザインをチーム単位で選択してチーム名を入れたもので注文を受けました。11チーム及び役員、レフリーソサエティーから注文を受け、500余枚を販売することができ、差引30万9千円の収益を上げることができました。 大会当日にはお揃いのシャツを着用してもらい、40回記念大会を大いに盛り上げてくれました。② オフィシャルネクタイは、6本③ 写真データ販売は、ある程度の注文を期待していましたが、数件に留まり結果を全く残せませんでした。 なお、オフィシャルネクタイは現在6本在庫しています。希望者には即販売できません。

平成22年度 各委員会活動報告書

委員会名	事業名及び実施日	成果及び課題
北海道選手権大会検討委員会	<p>第40回北海道ラグビーフットボール選手権大会記念事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記念祝賀会 期日 7月2日(金) 会場 アサヒビール園 ・ 大会当日 ・ 記念試合 期日 7月10日(土) 会場 月寒ラグビー場 内容 ラグビーボールと遊ぼう 小学生タグラグビー 女子タグラグビー ミニラグビー 女子セブンズ 不惑ラグビー 出店・おやつのお楽しみ 	<p>来賓として関東協会 水谷理事長ほか関係者90名ほどの参加者を得て、本大会の思い出についてトークショーを行い参加者一同がそれぞれに交流を図っていた。</p> <p>全試合においてアフターマッチファンクションを実施し、エール交換及びマンオブザマッチを選出し記念品を贈呈した。</p> <p>小雨交じりのあいにくの天候であったが、参加者はそれぞれ種目で大いに楽しんでいた。</p> <p>特に、本道では初めてとなる女子セブンズは、パス・タックル・エリアマネージメントなど目を見張るものがあり大いに注目を集めた。</p> <p>また、子供たちがおやつのお楽しみなどで歓声をあげ楽しんでいる様が印象的であった。</p> <p>可能であれば組織を整備し、次年度以降も北海道選手権大会の決勝前日にこのようなイベントを開催しラグビー競技のアップीलを図っていければとの感想を持った。</p>